

# ICT を利活用した産学連携キャリア教育実践 「会社訪問体験」の5年間の実践報告

鈴木孝幸<sup>†</sup>, 須藤康裕<sup>†</sup>, 八木勲<sup>†</sup>, 鷹野孝典<sup>†</sup>, 宮崎剛<sup>†</sup>, 木村誠聡<sup>†</sup>, 谷代一哉<sup>†</sup>, 稲葉達也<sup>†</sup>, 納富一宏<sup>†</sup>

神奈川工科大学 情報学部情報工学科<sup>†</sup>

## 1.はじめに

日本の大学におけるキャリア教育の重要性は社会情勢の変化とともにますます増大している[1-3]. 神奈川工科大学情報工学科では学部3年生を中心に産学連携キャリア教育実践として「会社訪問体験」を行っている. 神奈川県情報サービス産業協会[4]の協力の元に, 2014年度(平成26年度)から5年間で延べ560名の学生を送り出した. 「会社訪問体験」は, 2時間から4時間程度の内容で4名から5名のグループで実際に企業訪問を行う企画である[5]. 実施直後にアンケート調査を行うとともに, 翌年の就職活動を終了した学部4年生に対しても追跡アンケート調査[6]を最近の2年間で行ったので報告する. 3年生時の就職活動前の本活動を行うことで, 学生の意識向上に寄与しキャリア教育として有意義であったかについて評価を行った.

また, 訪問する学生と訪問先の企業のマッチングを行うために統合支援システムを開発・運用して事務処理の効率化を図ってきた. 5年間の活動とICTの利活用についても総括する

## 2.「会社訪問体験」の活動総括

情報工学科は1学年の定員約160名である. 「会社訪問体験」では, 5年間で表1のように計79社に対し延べ560名の学生を送り出した. 年によってばらつきがあるが定員の1/3程度の学生が, 就職活動前に実際の企業へ行ったことになる. 残念ながら必修科目ではないので参加しなかった学生の意識向上には寄与しない. 参加した学生は, 早い時期から就職活動を始める傾向があるが, 内定が早く決定するという相関はみられなかった.

表1 5年間の訪問学生数および訪問先企業数

実施年度	H26	H27	H28	H29	H30
訪問学生数	69	97	50	62	54
(延べ)	(93)	(117)	(100)	(146)	(104)
訪問先企業数	10	20	18	17	14
(延べ)	(19)	(23)	(47)	(28)	(24)

Practice Report of 5 Years of Academia-industry Cooperation Career Education Utilizing ICT

Takayuki Suzuki<sup>†</sup>, Yasuhiro Sudou<sup>†</sup>, Isao Yagi<sup>†</sup>, Kousuke Takano<sup>†</sup>, Tsuyoshi Miyazaki<sup>†</sup>, Tomoaki Kimura<sup>†</sup>, Kazuya Yashiro<sup>†</sup>, Tatsuya Inaba<sup>†</sup> and Kazuhiro Notomi<sup>†</sup>

<sup>†</sup>Dept. of Computer Sciences, Kanagawa Institute of Technology

参加直後に行ったアンケート調査では, 参加した学生の多くから良好な回答を得られている. 図1は, アンケートの中の「今後の就職活動や学習を進める上で役にたったかの質問に対する回答の推移である.

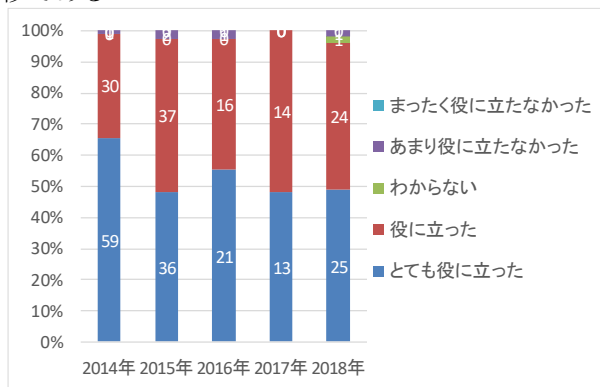


図1 「会社訪問体験」は今後の就職活動や学習を進める上で役にたったかのアンケート結果

2017年度と2018年度は, 就職活動を終了した4年生に対して追跡アンケート調査を行ったが, 企業側の採用意欲が高く, 売り手市場となって就職活動が好調だった学生が多く, 概ね「会社訪問体験」は役に立ったという回答が多かった. その一方で, 「訪問体験」で訪問した企業を実際の就職活動の候補にした学生は少数に留まった. 2時間程度の内容では, 業界や企業の概要はつかめるが, 就職してみたいまでは意識が高まらないようである. 訪問時間を長くしたり, 体験型の内容にしたり, いわゆるワンデー・インターンシップの内容との統合などが効果的かもしれない.

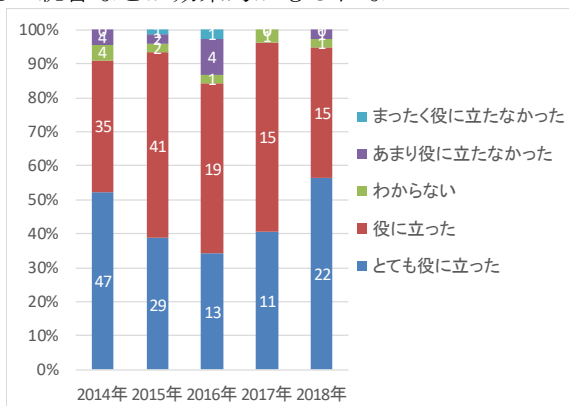


図2 全体的に「会社訪問体験」の実施内容に満足していますかのアンケート結果

訪問前のマナー講座などの事前オリエンテーションと、振り返りを行う事後オリエンテーションも行っているため、図2のように実施内容に対する満足度も高い状態で推移している。

### 3.実施手順と統合支援システム

訪問体験を実施する手順を時間順に並べると下記ようになる。時期は2018年度の場合である。

- ① **訪問時期の調整 (3月～5月)** : 神情協と訪問時期についての調整を行う。
- ② **学生への実施告知 (5月)** : 学生に対して、実施の趣旨と内容とスケジュールの告知
- ③ **参加意向調査 (5月)** : 神情協に対して訪問枠を設定してもらう参考として、学生の訪問意向調査を実施
- ④ **正式申込(7月)** : 神情協から提示された訪問枠を学生に提示して、申込みを実施
- ⑤ **事前オリエンテーション(8月)** : 実施意思の再確認、訪問時の服装・マナー、メールの書き方、学内事務手続きについて座学で説明。訪問の前に企業への挨拶メール・訪問後のお礼メールの指導。訪問企業に対する調査のグループワークを実施
- ⑥ **訪問(9月)** : 申込み企業への訪問
- ⑦ **事後オリエンテーション(10月)** : 訪問での気づきの共有をグループワークで実施。訪問先企業からのフィードバックを用いた反省・振り返り。学内事務手続きの説明。アンケート調査

教員、学生、企業担当者、大学事務員と関わる人員とやり取りする書類も多いので、学内で使用しているCMS(Course Management System)を中心に統合支援システム(図3)を開発してきた。システムのサポートにより書類の提出やメール送信のチェックなどの自動化が進み、効率的な運用が行えるようになった。最大の課題は、受け入れ企業側と学生の訪問先の希望とのマッチングの調整をどこまで自動化できるかあるが、本質的に難しい問題である。

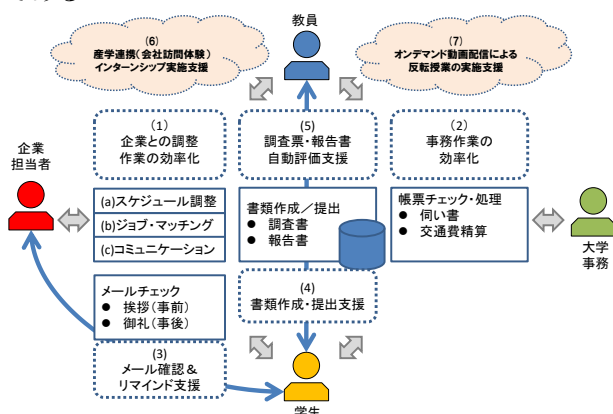


図3 2018年度の統合支援システムの構成

また、提出書類の体裁のみならず、内容のチェックまで踏み込めればより高い効率化を目指す。

### 4.おわりに

学部3年生を対象に、就職活動の前の段階として企業訪問する「会社訪問体験」をキャリア教育の一環として5年間実施してきた。直接の内定・就職につながるケースは殆どなかったが、就職活動の意識向上の早期化に貢献して来たといえる。実際の内定が取れるかは本人の努力のみならず、社会的な景気の動向などの影響を大きく受けるのでキャリア教育としてはコツコツと実施していくしかない。また、統合支援システムを順次整備してきたことにより効率的な運営が行えた。学内での他のプロジェクトへの横展開も検討している。あるいは、学内でのグループウェアのような汎用の情報共有の仕組みが導入されていれば支援システムの整備もスムーズに行える可能性がある。

今後は、より訪問先企業に興味を持ってもらうために訪問先での1回当たりの訪問時間を長くし、より体験的な内容の実施を検討してもらう。すると、一般的なワンデー・インターンシップとの差別化が難しくなるかもしれない。企業側の提供するワンデー・インターンシップのイベントとの統合も検討して行きたい。

### 参考文献

- [1] 寺田盛紀：「キャリア教育・職業教育のあり方について」、キャリア教育・職業教育特別部会(第4回)配付資料・文部科学省：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1266425.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1266425.htm), (参照2019.1).
- [2] 大学等におけるキャリア教育プログラム(厚生労働省)：[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/ko-you\\_roudou/shokugyououryoku/career\\_formation/career\\_consulting/career\\_kyouiku\\_programs/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/ko-you_roudou/shokugyououryoku/career_formation/career_consulting/career_kyouiku_programs/index.html), (参照2019.1).
- [3] 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)文部科学省：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo10/toushin/1301877.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/toushin/1301877.htm), (参照2019.1).
- [4] 神奈川県情報サービス産業協会：<https://www.kia.or.jp/>, (参照2019.1).
- [5] 鈴木孝幸, 八木勲, 鷹野孝典, 宮崎剛, 稲葉達也, 納富一宏：学生の意識向上を目指した産学連携キャリア教育の実践, 電子通信学会教育工学研究会, 信学技報, vol. 115, no. 492, ET2015-123, (2016.3).
- [6] 鈴木孝幸, 須藤康裕, 八木勲, 鷹野孝典, 宮崎剛, 木村誠聡, 稲葉達也, 納富一宏：産学連携キャリア教育実践の追跡調査報告と支援システムへの改善提案, 情報処理学会第80回全国大会, 7G-04, (2018.3).